

ICT やロボット、AI を考える

佐々木 炎

ICT やロボット、AI の活用が介護業界でも進んでいます。利用者の自立支援や介護者の負担軽減、介護職員の人材不足解消や効率化に役立つと考えられているからです。これは時代の流れであり、政府が打ち出した「未来投資戦略 2017」が後押しとなり、厚労省も本腰を入れています。私の知人が勤める大手企業は、AI を活用して健康管理や職員管理ができるシステムを商品化しているそうです。私たちの事業所も遅ればせながら、様々な場面で ICT を活用しています。

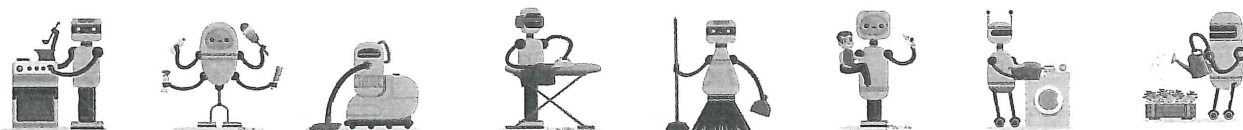
オックスフォード大学の研究者が、あと 10 年で「消える職業」「なくなる仕事」を発表して話

題になりました。銀行の融資や不動産ブローカー、弁護士のアシスタントなど、肉体労働者だけではなく、知識労働者も次々と失業していくと言います。さらに、警察官や医療スタッフ、高齢者介護などでもロボットが作業を担うことになる、と書かれていました。一方、「消えない職業」として芸術系の仕事や哲学者、コンサルタントやカウンセラーなど、他者理解や協調が求められる仕事をあげています。

こうしてみると介護の仕事の本質が見えてきます。思いやりや気遣い、共感などから生まれる人間同士の“関わりの無限の力”こそ、一人一人の職員が現

場で発揮しなければならないということです。ICT やロボット、AI は「業務」を効率化し、私たちに多くの時間をもたらします。これは時代の変化であり、今後より一層、加速化する流れでしょう。その中で私たちは、業務を効率化・代替してくれる道具を使いこなすことで生み出される時間を利用し、人にしかできないこと、つまり相手の痛みや苦しみを癒し、緩和を願う心、生きる喜びを共にする心を持ち、関わることに注力したいものです。

平成から新しい年号へ。介護の時代も大きく変化する予兆を感じます。



佐々木炎：NPO法人 ホットスペース中原代表